

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム	申請大学名	広島大学
申請大学長名	浅原 利正		
プログラム責任者	岡本 哲治		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野横断型プログラムとして学長、役員、全研究科長が参画した広島大学大学院リーディングプログラム機構等の整備に努めており、各研究科や専攻と、きめ細かい摺り合せを行っている。 ・既に放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムの下にフェニックス・トレーニングセンターをはじめとする教育組織が整備されており、平成 24 年 10 月の第 1 期生の入学に向け、体制が整ってきている。 ・諸外国にも例のないユニークなプログラムであり、広島大学ならではの人材育成について、内外から注目されており、今後の発展が期待される。 ・当初 5 年制一貫コースのみに計画されていた qualifying examination を 4 年制コースにも導入するなど、教育プログラムの改善が見られる。 ・IAEA など、外国の機関との交流が計画されており、既にシンポジウムも開催されている。また、キャリアパスとしての可能性も広がっている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の学生募集では、少数の応募者の中から、定員の半数に相当する 5 名を入学決定したとのことであるが、今後は広い分野から多くの応募者を集め、可能な限り資質の高い学生を選抜することが可能となるような入試選抜体制を整える必要がある。 ・国際的なリーダーとなる人材を育成するためには、語学面の教育だけではなく、幅の広い人間的な力も求められる。プログラムとして、何をもって国際的なリーダーとして考えているかを一層明確に示し、運営していく必要がある。 ・本プログラムでは、放射線災害から①生命を護る、②環境を護る、③人と社会を護る人材を育成するとしているが、その人材は、将来アカデミアを目指すのみならず、社会や企業で活躍する専門家を目指す学生も含まれる。双方のキャリアを目指すためには、それが可能になる俯瞰的で、かつ合理的な教育体制を構築する必要がある。修了者がどのようなキャリアを歩むかは、将来、本プログラムを持続していくための鍵となるため尽力することが必要である。 ・フィールドワーク、インターンシップなどのさまざまな教育の機会が与えられているが、同時に博士課程修了時に英文の原著論文の発表が求められている。wet science では、論文発表までに十分な時間的余裕が必要であり、充分注意が必要である。 			